

2 公益財団法人放射線影響研究所の移転について

(厚生労働省・外務省関係)

要望内容

放射線影響研究所の着実な移転及びその機能の更なる発展

(要 旨)

公益財団法人放射線影響研究所（以下「放影研」という。）は、原爆傷害調査委員会（ＡＢＣＣ）を前身として、昭和 22 年に創設されて以来、原子爆弾被爆者の健康管理と医療面の調査研究に大きな役割を果たしております。

この放影研に関しては、ＡＢＣＣの比治山への建設が、占領下で強行された歴史的経緯や、昭和 25 年の建設から 70 年以上が経過し、施設・設備の老朽化が著しく、これまで蓄積された被爆者の貴重な試料（血液）の保存など、機能の維持さえ困難となる可能性があったこと等から、その比治山からの移転が強く望まれてきました。

また、本市では、平成 29 年 3 月に、放影研移転後の跡地利用を含む、「比治山公園『平和の丘』基本計画」を策定し、現在、この計画に基づき、比治山公園の再整備に取り組んでいます。

こうした中、本年 1 月に、放影研が広島大学霞キャンパスに移転することが正式に決定され、令和 7 年度の完成を目指すことが示されたことは、移転実現に向けた大きな動きであり、広島市民にとって喜ばしいことであると考えています。

つきましては、国において、放影研に係る機能の更なる発展に向け、移転を着実に進められるよう、放影研に対する十分な財政措置を講じていただくよう、格別の御配慮をお願いいたします。

(参 考)

1 放影研の現況

- (1) 所在地 広島市南区比治山公園
- (2) 敷地面積 2万2,716 m²
- (3) 建物面積 延9,233 m²

2 放影研移転の概要

- (1) 移転場所 広島大学「霞キャンパス ひろしま医工連携・先進医療イノベーション拠点棟」の敷地
- (2) 新施設の概要 鉄骨鉄筋コンクリート造 10階建
(広島大学との合築)
- (3) 建物面積 延約7,700 m²
(広島大学：1階、放影研：1～10階)
- (4) 位置図

